

劉曉波へのノーベル平和賞授与は間違いだったのか？

— 給刘晓波的诺贝尔和平奖有错误吗？ —

ジョン・ハミルトン¹

要旨

2010年10月8日、ノルウェー・ノーベル委員会は「中国における基本的人権のために長年、非暴力的な闘いをしてきた」劉曉波氏にノーベル平和賞を授与する決定をした。劉曉波氏は「08憲章」の起草者の一人であり、現在は中国で服役中である。ノーベル平和賞の最近の受賞者には、ダライ・ラマ14世(1989)、ミハイル・ゴルバチョフ(1990)、アウンサンスーチー(1991)、リゴベルタ・メンチュウ(1992)、ネルソン・マンデラ(1993)、金大中(2000)、ムハマド・ユヌス(2006)、アル・ゴア(2007)、そしてバラク・オバマ(2009)などがある。劉曉波へのノーベル平和賞授与は間違いだったのか？

キーワード：野党，自由，恐怖

私の話は、出発点、過去のノーベル平和賞受賞者、劉曉波、08憲章と彼の受賞したノーベル平和賞の3つの部分から成り立っている。最後の部分では中国政府の今回の受賞に対する意見を支持し、次に国際社会の意見を説明する。

I. 私の出発点

1. パリ時代

私は若い頃香港上海銀行のロンドン・パリ・香港支店で働いていた。香港に住む前に滞在していたパリの生活は大好きだった。フランス語を勉強し、フランス人の友達ができた。

パリの生活を楽しんだもう一人の人物が鄧小平である。ここに彼の伝記、*Deng Xiaoping by Uli Franz*がある。私は鄧小平が大好きだ。背は低かったけれど彼は偉大な人だった。彼

は15・6歳のときパリに行き、ルノーの自動車工場で働いていた。同じ頃に周恩来がパリで中国共産党の新聞の編集者をしていて、鄧小平は夜には周恩来を手伝ってガリ版を切って印刷した。彼もパリの生活を楽しんだ、たとえば、煙草、クロワッサン、ブリッジ。後に香港返還についてイギリスと話し合ったとき、鄧小平の交渉の仕方はブリッジのやり方に似ていた。私もブリッジをやるのでそれが分かる。

ここにもう一つの本、*The White Boned Demon: A Biography of Madame Mao Zedong by Ross Terrill*がある。これは上海の女優時代から文化大革命までの江青の伝記である。彼女はもう少しで中国政府を乗っ取って、女帝になるところだったが、周恩来と鄧小平がそれを防いだ。私は周恩来も尊敬している。

2. 香港時代

パリの後は香港で働いた。香港は興味深い所だったが、イギリス人の中国人に対する植民地主義的な態度が嫌いだった。それは1973年の香港のバブルの時期だった。そのバブルは銀行家が作ったものだった。最近同じことを銀行家は日本とイギリスでやった。その後で多くの銀行がつぶれた。私がお金を預けている The Royal Bank of Scotland もつぶれた。妻はイギリスで周章狼狽した。アメリカと日本では銀行は沢山のお金を大学から上手に取りあげた。1973年の香港ではお金をあまり持たない人のお金が取られた。だから私は香港上海銀行を辞職した。

3. 愛知大学

次の仕事が愛知大学である。私が愛知大学に来た時、東亜同文書院のことは何も知らなかった。私は卒業研究のための「大旅行」という考えを気に入っている。

私の研究テーマは蜜蜂である。ここに養蜂についての本が2冊ある。「中国蜜粉源植物及其利用」と徐万林著「中国蜜粉源植物」である。最初の本の中には省ごとにいつ、どの蜜源植物が咲くのかを示した地図がある。もうひとつの本には色々な花のきれいな写真が載せてある。私が中国に行く前に、愛知大学の小山先生が、「夜行列車で旅をする方がホテルより安いし、中国の人と話もできる」とアドバイスしてくれた。愛知大学の研究費のおかげで養蜂家にインタビューするために楽しく中国のあちこちを旅行した。黒竜江から雲南まで、浙江省・湖北省・山東省・四川省・・・いろいろなところに行った。汽車の中でブリッジをやり、お酒を飲み、中国語をしゃべりながら旅をした。実を言うと、ウィスキーの助けを借りないと中国語はうまく話せない。

東亜同文書院と愛知大学の目的はいずれも日中友好である。私はこの目的が本当だったと信じている。豊橋の旧本館の中の記念セン

ターに、孫文と東亜同文書院大学の卒業生で孫文の秘書をしていた山田純三郎の写真がある。他にも孫文の書と写真が展示されている。来年は辛亥革命百周年なのでこれらの展示品は大事である。

しかしそれだけではなく、多くの愛知大学の関係者は日中友好のために頑張った。もう一冊言及したい本がある。この「中日大辞典」はよく知られている。今泉先生はこれを作るため他の人たちと40年間頑張った。名前を挙げるべきもう一人の人は十五年戦争について書いた法学部の江口先生である。中国の南開大学でも中日友好のため、例えば Pang Song Feng さんが頑張った。

II. 過去のノーベル平和賞受賞者

1. ノーベル平和賞

当初からノーベル平和賞は議論的によくなかった。アルフレッド・ノーベルの父親は地雷と魚雷の工場を所有していた。ノーベルは父の後を継ぎ、爆薬を発明し製造して財を成した。中でもダイナマイトは有名である。彼が1896年に亡くなった時その遺産はノーベル賞のために寄付された。彼の遺言書の中に、ノーベル平和賞はオスロの委員会が決めるようにと書いてあった。

2. 過去のノーベル平和賞受賞者

次にこれまでの受賞者を何人か名前を挙げよう。

まず、佐藤栄作である。私が彼の名を言うと私の日本人の友人は笑った。彼は「非核3原則」一核兵器は持たず、作らず、持ち込ませずで平和賞を受賞した。しかし、最初から「持ち込ませず」というのは絵空事だと多くの日本人は思っていた。

ロンドンの Chatham House でダライ・ラマ14世の話聞いた。彼はチベット語で話し、

それが英語に通訳された。最近彼は日本に来たが、英語で話していた。日本人の英語はそれほど強くないから安心して英語で話せませと、彼は冗談めかして言っていた。今回はチベットについては触れない。しかし、将来チベットは20億人のインドと20億人の中国の間のとても重要な緩衝地帯になると思う。

ミハイル・ゴルバチョフは南ロシアのスタヴロポリ温泉の出身だった。彼はソ連共産党の書記長に、ついでソ連の大統領になった。1989年5月天安門事件のさなかに彼は北京を訪問した。同じ年に東欧革命が起こり翌年彼はノーベル平和賞を受賞した。91年ペレストロイカとグラスノスチの結果政治的混乱が生じ、共産党のメンバーによりクーデターが起こったが失敗に終わった。その後でソ連は崩壊し冷戦は終焉した。スターリンの帝国は平和的に姿を消した。ロシア人はソ連を終わらせたゴルバチョフを尊敬していない。ハミルトンの意見ではゴルバチョフは素晴らしい人だった。

ここにアウンサンスーチーの本、*Freedom from Fear*「自由」がある。彼女は1985-6年京都市に住んでいた。京都大学東南アジア研究センターの客員研究員だった。1989年ラングーン在住の母親が病気になり彼女はビルマに帰国した。間もなく彼女は国民民主連盟の指導者になった。1990年国民民主連盟は選挙で大勝したが、彼女の自宅軟禁は解かれていない。1991年彼女はノーベル平和賞を受賞した。中国政府がビルマの軍事政権を支持し続けていることは議論的となっている。

これはリゴベルタ・メンチュウの著書、*An Indian Woman in Guatemala*である。これはグアテマラのインディオの人たちの生活について述べた美しい本である。しかし同時にスペイン語を話している人たちのインディオに対する差別と搾取も取り上げている。1992年はコロンブスの「アメリカ」到着500年記念の

年だった。コロンブスの「アメリカ発見」とその後の先住民に対する扱いに抗議して、小さなグループがニカラグアからワシントンまで歩いた。その中に二人の日本人、山伏さんとドミニコ会のシスターがいました。シスターさんは私の友達である。メキシコで彼らは亡命のリゴベルタ・メンチュウに会った。

ここにネルソン・マンデラが刑務所でそのほとんどを書いた自伝、*Long Walk to Freedom*がある。彼は27年間ケープタウンの近くのロベン島の刑務所に収容されていた。釈放後彼は大統領になった。

金大中は北朝鮮との宥和を目指し、それに対してノーベル平和賞を受賞した。しかしその努力は成功しなかった。先月北朝鮮はヨンピョン島を攻撃した。

ムハマド・ユヌスは、彼のマイクロクレジットの考えと彼が創設したバングラデシュのグラミン銀行が女性の地位向上に貢献したことに対してノーベル平和賞を受賞した。

そしてバラク・オバマのノーベル平和賞を多くの人は「早すぎる」と評価した。

III. 劉曉波, 08 憲章と彼の受賞したノーベル平和賞

1. 劉曉波のノーベル平和賞に対する中国側の反応

中国は大きな国である。人口が14億人あり、強い政府が必要である。誰であっても中国を統治するのは簡単ではない。

1999年香港が返還された。1984年の返還交渉の時香港の人たちは心配していた。しかし香港は心配されていたように中国本土のようにはならなかった。その代わりに、最近30年間の間に中国全体が香港のようになった。

自由は、いわばポケットにどれ位のお金が入っているか次第である。あなたにお金があればある程、転職、子供の教育、家の引っ越

しなどについてあなたはより自由に選ぶことができる。この30年間で中国の生活水準は高くなった。従って自由の度合いは増している。

北京オリンピック、上海の地下鉄、上海万博は、海外に向けた中国のサインである。中国の経済発展のおかげで、最近日本とイギリス、アメリカは高い生活水準を享受している。百円ショップのことだけを言っているのではない。中国が「世界の工場」になっている現在の世界の経済の仕組みは、1971年の名古屋での国際卓球大会から始った。アメリカと中国も参加した。中京大学の教員にそのときの日本の代表選手がいる。水曜日に時々中京大学の教職員用レストランでその人に会うことがある。この大会でいわゆる「ピンポン外交」が始まった。翌1972年、ニクソンの電撃的な訪中があり、新しい経済制度が始まった。

08憲章を書くのはそれほど難しいことではない。アメリカの憲法、世界人権宣言と中国の歴史の教科書さえあれば、頭のいい憲法学者なら誰でも書けるものである。18世紀の終わりに書かれたアメリカの憲法の言葉は素晴らしくて感動的だが、14億人の人口がある21世紀の初めの中国にそのままの形でふさわしいかどうかは簡単にはいえないことである。

2. 国際社会の意見

繰り返しになるが、中国には強い政府が必要である。現在の政府は十分強いと言えるだろうか。強くなるためには政治改革が必要だ。つまり、政府を批判し、政府に取って変わる力のある野党が必要なのである。

私はイギリス人で、イギリス保守党の党員である。イギリスでは1997年に保守党は疲れて墮落していた。労働党が順番を待っていた。そして政権を取った。私はそれは残念なことだと思った。でも選挙の結果は受け入れた。

2010年5月労働党は疲れて墮落していた。保守党が待っていた。政権が交代した。デービッド・キャメロン42歳が閣僚の経験もなく首相になった。二大政党制は悪くない。

アメリカではジョージ・W・ブッシュが8年間大統領だった。変化が必要で、オバマとヒラリー・クリントンが待っていた。野党の制度は便利である。ブッシュがさらに大統領をやっていたら、国民はバリエードを作っていたらう。

日本では、私は詳しくないが、自民党は分裂して一部は野党になった。去年ほとんどの日本人は「さようなら麻生さん」と言った。民主党の番が来て次の政府になった。

国際社会は、中国が強くて安定した政府を持つには、「野党」のアイデアに慣れる必要があると思っている。「野党」のアイデアは08憲章に書いてある。そういうわけで、ノーベル平和賞委員会は劉曉波にノーベル平和賞を授与した。

その劉曉波へのノーベル平和賞授与は間違っていたのだろうか。現在の、そして将来の中国の人たちがその答えを一步一步探さなくてはならないだろうと私は思う。

脚注*

¹ 愛知大学法学部教授。

*参考文献

- [1] Uli Franz. *Deng Xiaoping*. Harcourt. 1988..
- [2] Ross Terrill. *The White Boned Demon: A Biography of Madame Mao Zedong*. William Heinemann. 1984.
- [3] Aung San Suu Kyi. *Freedom from Fear*. Penguin. 1996

- [5] Rigoberta Menchu. *An Indian Woman in Guatemala*. Verso Books. 1987
- [6] Nelson Mandela. *Long Walk to Freedom*. Back Bay Books. 1995

後記 (2011年12月15日)

私がこの発表を行ってから1年が経った。2010年のクリスマスの前に原稿を提出したが、出版されないまま一年が過ぎ、今2011年のクリスマスが目前に迫っている。私の原稿はすぐに出版されるべきだったと思っている。しかし出版が延びたことで書いてから1年後に改めて読み直す機会が与えられた。議論を両側から公平に考えることは道理にかなっていると思う。

東亜同文書院の価値ある後身である愛知大学が、名古屋市の笹島に新しくキャンパスを開き、新たに発展していくのにあわせて、この原稿ができるだけ速やかに出版されること信じている。